

## ■ 本文

さいつころ、雲林院の菩提講に〔①〕まうでて〔②〕侍りしかば、例の人よりは〔③〕こよなう年老い、〔④〕うたてげなる翁ふたり、嫗（おうな）と〔⑤〕行きあひて、同じ所に〔⑥〕居ぬめり。〔⑦〕あはれに、〔⑧〕同じやうなるもののさまかなと見侍りしに、これらうち笑ひ、見かはして言ふやう、

「おぼしきこと言はぬは、げに〔⑨〕腹ふくるるわざ〔⑩〕なりや。」

とこそ言はれけれ。

（注）さいつころ＝先ごろ。／菩提講＝法華經を講じる法会。／こよなう＝この上なく。／うたてげなり＝気味が悪い感じだ。／嫗＝老女。／おぼしきこと＝思っていること。言いたいこと。／げに＝なるほど・本当に。／腹ふくるるわざ＝（言いたいことを言わずにいると）気がふさぐこと。

## ■ 設問（全22問）

- 傍線部〔①〕「まうで」を、(1)文法的に説明し、(2)誰の動作かを答えよ。
  - 動詞の活用の種類と敬語の種類・敬意の対象
  - 動作の主体
- 傍線部〔②〕「侍り」について、ここでの「侍り」の意味（用法）を答えよ。
- 傍線部〔③〕「こよなう」を、(1)もとの終止形（基本形）に直し、(2)意味を答えよ。
  - 基本形（終止形）
  - 意味
- 傍線部〔④〕「うたてげなる」の意味として最も適切なものを選び。  
ア 立派な イ 気味が悪い・異様な ウ いとしい エ 若々しい
- 「うたてげなる翁ふたり、嫗と行きあひて」とあるが、この場面に登場する人物は合計何人か。漢数字で答えよ。
- 傍線部〔⑤〕「行きあひて」の主語は誰か。本文中の語で答えよ。
- 傍線部〔⑥〕「居ぬめり」を単語に分け、それぞれの品詞・意味（活用形を含む）を説明せよ。
- 傍線部〔⑦〕「あはれに」の終止形（基本形）と意味を答えよ。
  - 基本形（終止形）
  - 意味
- 傍線部〔⑧〕「同じやうなるもののさまかな」を現代語訳せよ。
- 傍線部〔⑧〕の「かな」の文法的説明として最も適切なものを選び。  
ア 疑問の係助詞 イ 詠嘆の終助詞 ウ 完了の助動詞 エ 反語の副助詞
- 「これらうち笑ひ、見かはして言ふやう」の「これら」とは、具体的に誰を指すか。説明せよ。

12. 傍線部「おぼしきこと言はぬは」を現代語訳せよ。
13. 傍線部〔⑨〕「腹ふくるるわざなりや」とは、どのようなことを言っているか。注を参考に、十五字以内の現代語で説明せよ。
14. 傍線部〔⑩〕「なりや」の「なり」の文法的説明として最も適切なものを選べ。  
ア 断定の助動詞「なり」の終止形　イ 伝聞・推定の助動詞「なり」　ウ 四段動詞「なる」の連用形  
エ 形容動詞の活用語尾
15. 「とこそ言はれけれ。」の文末が「けれ」（已然形）で結ばれているのはなぜか。文法的に説明せよ。
16. 傍線部〔②〕「まうでて侍りしかば」の「しか」の文法的説明を、基本形・意味・活用形を含めて答えよ。
17. 傍線部〔②〕「まうでて侍りしかば」の「ば」は、ここでは順接・逆接のどちらの確定条件か。意味も含めて答えよ。
18. 『大鏡』のように、二人の老人の昔語りという形で歴史を語る物語は、何という叙述の形式に分類されるか。最も適切なものを選べ。  
ア 編年体　イ 紀伝体　ウ 日記体　エ 随筆体
19. 『大鏡』が描く時代の中心人物で、その栄華が物語の主題となっている人物は誰か。氏名で答えよ。
20. 『大鏡』は、その記述内容から何という種類の物語に分類されるか。漢字四字以内で答えよ。
21. 『大鏡』とともに「四鏡（しきょう）」と呼ばれる歴史物語を、他に三つすべて答えよ。
22. この場面で語り手となる二人の老人の名前を、両方答えよ（氏名）。